

交通事故ゼロをめざして 交通安全啓発 ラッピングバス運行開始

全国的に少子高齢化が進む中、高齢者や通学途中の児童・生徒が巻き込まれる事故が後を絶ちません。

交通事故ゼロのまちをめざすこと、市では、甲賀農業協同組合・甲賀警察署の全面的な協賛と滋賀バス株式会社、株式会社シガ・エージェンツシステムとの協力による官民連携により、白黒のパトカー仕様のラッピングを施したコミュニティバスの運行を開始し、交通安全啓発に取り組んでいます。

7月19日には、甲賀農業協同組合本所でラッピングバスの出発式を行い、中嶋市長が、「より安全性の高い公共交通機関の利用など事故を防ぐためには、一人ひとりの心がけが大切」と呼びかけました。

バスは主に、水口町内の各ルートを巡回しています。

問い合わせ
公共交通推進室 公共交通推進係
☎65-0672 ☎63-4554



▲白と黒のパトカーカラーに「子どもと高齢者を交通事故から守ろう！」などの標語で交通安全を呼びかけるラッピングバス

▲出発式でのテープカット

入館者20万人を達成 みなくち子どもの森自然館

甲賀の自然をテーマにした博物館「みなくち子どもの森自然館」の入館者が7月19日、開園から20万人目を数えました。

記念すべき20万人目となったのは、甲南町在住の住谷優菜さん(小5)で、この日は、父親の徳宗さんと夏季特別展「蝶」を見に訪れました。出迎えた中嶋市長と一緒にくす玉を割った後、オオクワガタの標本など記念品が贈呈され、思わぬお祝いに嬉しそうな笑顔を見せていました。

みなくち子どもの森は、里山で自然観察ができる公園として平成13年7月に開園し、自然館では、植物や昆虫、化石などが展示されています。市の自然の魅力に触れることができる施設です。皆さんもぜひ一度訪れてみてください。

夏季特別展 蝶〜チョウ〜開催中

- ◆期間／～9月15日(月・祝)
- ◆開園時間／9時～16時30分(自然館の入館は16時まで)
- ◆入館料／大人200円 小・中学生100円(公園内へは無料)



▲20万人目の来館者となった住谷優菜さん

みなくち子どもの森自然館
☎63-6712 / ☎63-0466

「野菜塾」が寄りあい場所に

●小原地域市民センター

信楽町の西区では、地域恒例のキムチづくりを使う白菜の栽培をきっかけに、3年前から地域の方が集い、「野菜塾」を始めました。

今では、味噌作りの大豆をはじめ野菜の種類も増えて、高齢者サロンの食材にも提供されています。メンバーの呼びかけで家にいる高齢の人にも畑に来られ、語らうの時間を過ごされています。



▲じゃがいも収穫中

また、休日には若い人も畑仕事に加わり、畑が地域の皆さんの寄りあい場所になっているようです。これからも「野菜塾」を通して住民交流やまちづくりの発展を願っています。

「あやのわいわいフェスタ」 9月28日開催

●綾野地域市民センター



▶昨年のあやのわいわいフェスタの様子

昨年、約千人の方にご来場頂き、大変盛り上がった「あやのわいわいフェスタ」。今年も綾野自治振興会綾野学区まちづくり協議会主催で、水口中央公民館および水口体育館で開催されます。

今年のテーマは「たのしさ わらうい げんき」。子どもたちに楽しんでもらえるイベントがたくさん用意されています。例えば、わたがしやポップコーンなどのお店、スパーボールすくいやバルーンアートなどの遊び、ダンスや水口囃子などのショーといった、買って・遊んで・見て楽しい企画が目白押しです。

どなたでも歓迎ですので、ぜひご家族やお友達同士で遊びに来てください。

綾野自治振興会ホームページ：http://ayano-mzk.com/

地域市民センター

東 西 南 北

甲賀武士の城跡を巡る ウォーキング

●油日地域市民センター

6月8日、油日駅を守る会主催(油日自治振興会共催)の「甲賀武士ゆかりの城跡を巡るウォーキングイベント」に県内外から約1000人の参加がありました。

コースはJR甲賀駅をスタートし、ササユリが鑑賞できる梅垣城跡、人里にある大原城跡や山城である上野城跡などを訪ね、JR油日駅までの11キロ。

参加者は昼食時に鹿肉、猪肉の焼き肉に舌鼓を打ちながら、戦国時代に思いをはせ、甲賀の魅力を満喫した一日でした。

引き継がれる切り絵の技 稗谷の「透かし灯籠」

●甲南第一地域市民センター



▲繊細な切り絵が貼られる「透かし灯籠」

甲南町稗谷では7月の第3土・日曜日に祇園祭が行われ、昔ながらの習わしが引き継がれています。特に宵宮に津島神社へ奉納される「透かし灯籠」は、半紙を細かく切り抜いた切り絵が貼られ、「ロウソクの明かりに平安朝の美人画が浮かぶ灯籠で、若衆と呼ばれる区内の中学生から30代の長男が、代々灯籠づくりをしています。

6月初めに「絵分け」をして元絵を持ち帰り各家で切り抜きますが、初めての中学生は、かつて若衆であったお父さんやお祖父さんから教わって切り方を覚え、年ごとにその技の磨きがかかっていくそうです。

今年も、あいにくの雨で公民館での披露となりましたが、親から子へと伝えられてきた夏の伝統行事です。



▶城跡で専門家から説明を聞く参加者